

第 26 回 運営推進会議 議事録

実施日 : 平成 24 年 2 月 22 日(水)

場 所 : 3 階 竹ユニット 空居室にて

時 間 : 午後 12:30~午後1:30

参加者 : (家族)伊藤氏・(家族)佐伯氏 / (町内会)高士氏 / (町内会)瀬野氏 /
(支援センター)山埜氏 / (管理者)谷口

計 6 名

欠席者 : (医師)小笠原氏

計 1 名

<会議内容>

1. 第 25 回 運営推進会議を「ホームの昼食試食会と経過報告・談話会」として実施した。

①「昼食メニュー」

- ・親子丼
- ・お吸い物
- ・きんぴら
- ・ブロッコリーと豆腐のソースかけ
- ・フルーツ(いちご)

②「経過報告・談話内容」

a)「西まち」便り 1 月号より

<クリスマス会>…この日の為に今年要約「ハンドベル」を購入した。

・余興等は各ユニット毎と町内の方々の「フラダンス」と演奏ボランティアの方の参加もあり盛り上がりがあった。

・入居者への今年のプレゼントは昨年同様「お菓子の飾りミニツリー」を贈った。

<年末の餅つき>…入居者の殆どが餅は大好きです。歯が無くとも上手に食べ又

沢山食べます。作る側も張り合いがあります。餅での窒息はありません。

町内の方々のボランティアもあり助かりました。

b)「西まち」便り 2 月号より

<初詣>…入居者 4 名(2 階・3 階合わせて)北海道神宮に行ってきた。

・車椅子の方もエレベーター設置されていたので社務所廊下を通りお参り出来るようになっていた。

<看取り>…開設日に入居した 97 才女性 入居して 7 年の間何度となく危険な状態に

なっては回復しての繰り返しだった。いつもと変わらない中突然の心停止で亡くなった。家族には「高齢でもあり心臓の状態も良くないためいつ? どう

んな状態で逝くか? はわからない」とは言い続けていた。

c) 1 月 28 日(土)全日本病院協会主催による「終末期ガイドラインのあり方に関するグループインタビュー」に参加した。(応募したところ選出された)グループインタビューは 2 日間あり 1 日 3 組、1 組 7 ~ 8 人で組まれていた。全国からの応募で看取りの経験を活かした意見交換や厚生労働省のガイドラインと全日本病院協会のガイドラインの内容をどう思ったか等の意見を求められた。

- ・延命治療の判断確認を本人が出来ない場合は誰がするのか？とりあえず「家族の代表」としているが代表者としても人の命を左右する判断はとても重すぎて判断できない人もいます。その判断の責任を本人が普段から家族に伝えておくか又書面に残しておくことが大事と意見がまとまる。
- ・書面で残しておいても何処に置いたか？どこに書いたか？と分からなくなる事がある。そのような事から常に持ち歩き出来、健康保険証のような携帯用「延命判断書」という物があるといいのではないか？と意見がまとまった。又ある年齢になったら役所の方からこの携帯用「延命判断書」が送付されてきて個人が記入し家族も知りそして持ち歩くようにする。と言う意見もあった。

以上

次回 運営推進会議開催日 平成24年6月13日(水)

医療法人 尚仁会
グループホーム「西まち」
管理者 谷口 良子